

令和８年度 第１回平塚市地域公共交通活性化協議会

１ 日 時

令和８年８月７日（金）９時３０分から１０時４０分まで

２ 場 所

平塚市役所３０２会議室

３ 出席者

○ 委員１７人

津田委員、関委員、委員、井上委員、中川委員（代理：中井氏）、渡辺委員（代理：加藤氏）、渋谷委員、小寺委員（代理：小高氏）、長谷川委員、松下委員、野島委員、重田委員、委員、委員、梶田委員、藤本委員、河津委員

○ 事務局

小澤まちづくり政策部長、市川交通政策課長、
交通政策課 海老澤課長代理ほか担当２名

４ 会議の成立

平塚市地域公共交通活性化協議会規約第６条第２項に基づき、委員の過半数の出席により成立

５ 傍聴者

０人

６ 議 題

- （１）平塚市地域公共交通網形成計画に基づく施策の取組状況について
- （２）協議会委員からの意見について

７ 議事録

次ページ以降に記載のとおり

○議事録

	会議冒頭で平塚市地域公共交通活性化協議会委員の委嘱式(交代があった方のみ)を実施
会長	会長を務めております、東海大学の梶田です。それでは議題に入りたいと思います。まずは議題(1)平塚市地域公共交通網形成計画に基づく施策の取組み状況について、事務局より御説明をお願いいたします。
事務局	それでは、御説明させていただきます。 資料1は、平塚市地域公共交通網形成計画の53ページに掲載されているもので、施策体系や施策メニューが載っております。資料1-1は、この施策に対して今年度どのように取組んでいるか、現在の取組状況を記載したものです。(資料1～資料8について事務局から説明)
会長	ただいまの説明について、御意見はありますか。
委員	住民主体の地域内移送支援事例については、平塚市岡崎地区コミュニティタクシー実証実験のように、交通不便地域の移動対策として同じと思いますが、これから増えてくるものと考えます。 バス運行事業者による幹線バスの運行だけではなく、自治会のような地域で交通の運営組織を作り、地域包括支援センターが協力する等、新しい仕組み作りが必要と感じます。 今後、この場での検討なのか、平塚市都市マスタープラン(第3次)策定を通じて検討されるのか、もしくは地域でも何か考えていくべきなのか、如何でしょうか。
事務局	委員御指摘のとおり、移送支援は地域の皆様の日常の移動手段の1つであると認識しております。

	福祉部門と常に連携し、どのような移動手段が地域に寄り添えるかというところを研究しています。令和3年度から5年度にかけまして、私どもが制作しました手引きを用いて、交通における困りごとの解消につきまして、進め方や手段について、各地域に紹介しました。 その結果、岡崎地区の皆さんは大変熱心に考えてくださり、協議会を立ち上げていただきながら、我々と協働しながら、コミュニティタクシー実証実験に必要な調整をしております。 どのような交通手段がよいのかというところは、実は地域によってまちまちですので、まずはその地域を一番知っている地域の方の声を拾い、その後の持続可能性を考え、地域の方に乗っていただく機運を高めていただく必要があるため、地域の方とともに学びニーズ把握しながら進めていく必要があります。 その進め方は、岡崎地区の取組みが先行的な事例になるのかなと思っていますので、この過程をお示ししながら、他地域とお話を進めていければと思っています。 最近では吉沢地区の自治会から、岡崎の取組みについて話を聞きたいということで、7月13日に御説明したところです。 この岡崎の取組みは、様々な広報媒体でPRされ、またその熱心な活動から先行事例として、是非とも形にして、これから他地域に展開していければと思います。 また、第2次平塚市総合交通計画も策定をまいりますので、その中でもどのような形で触れるのがいいか考えながら、取組んでいきたいと思っています。
会長	岡崎地区の取組みは非常に順調ということですね。
委員	タクシーとバスの良いところが合わさっており、帰りは重い荷物があっても340円で自宅まで行けるのが良いと思います。
委員	地元の方は喜んでいらっしゃいます。若干の検討事項もありますので、解決し

	ながら進められれば、と思います。
会長	自動運転バス実証実験について、今年の実証内容はどのようなものでしょうか。
委員	今年度の実証内容で、一番大きい取組みは立席乗車による運用を検討していることです。 今後の社会実装を考えると、立席のお客様も乗車いただくということを目指していかなければいけないと考えます。大型バスでの実績という形としては、全国的な事例として先行する形です。 今年も、12月から1月にかけて実証運行を進めさせていただきます。その際には御乗車いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。
委員	昨年度は自動運転バスに乗り込ませていただき、大きなトラックの路上駐車も自動回避していたのを体験できました。
会長	土沢地区とは、移動手段の確保について意見交換をしているとのことですが、内容についてはどのようなものでしょうか。
委員	意見交換会では、利用状況を毎回報告しております。先日の意見交換会では、以前から利用が少ない状況が続く、さらに神奈川大学跡地利用が不透明になったことでもありますので、実情を踏まえた再編をさせていただきたいと、お伝えしております。
会長	路線バスの利用促進については、ベルマーレの試合に合わせたイベントを実施されたとのことですが、これからも色々な情報提供を通じて、路線バスへの愛着を持っていただければと思います。 タクシーの状況についてはどのようなものでしょうか。

委員	日中と異なり、夜間は需要に対し、タクシーの配車が十分でないという課題があります。
会長	UDタクシーについては、ジャパンタクシーも導入されていますか。
事務局	導入されています。
会長	それでは、議題(2)協議会委員からの意見について、まずは事務局から説明を行います。 (資料9について事務局から説明)
会長	委員から、思いをさらに聞かせていただければと思います。
委員	コロナ禍を経て、人口動態や移動のニーズが大きく変化しています。近年の調査では、オンラインの普及により若者の外出が減る一方で、高齢者の外出頻度が増えているという結果も出ており、従来型の延長線上にない都市の仕組みづくりが必要だと思います。 都市マスタープランで綺麗な将来像を描くだけでは、具体的な行動計画にまで落とし込むことは難しいと感じています。 平塚市立地適正化計画等の提案も含めて、目標となる節目を設け、そこから逆算して、いつまでに何を実施するかという視点を出すことで、地域住民側からも行政と連携して施策を実施しようとするきっかけになるよう、前向きな情報発信を行っていただけると良いと思います。 また、市北部の住民は、伊勢原市や厚木市といった隣接する市との日常生活圏の繋がりが深いです。平塚駅中心の計画だけでなく、生活者の目線に立って、隣接する周辺自治体の計画との繋がりを意識した計画作りを進めていただきたいと思います。 次に平塚駅周辺についてです。ラスカの開業を含めた駅前整備から50～60

	年が経過し、コロナ前後でも駅の利用形態やバスやタクシーの需要は大きく変化しています。 配布された資料には、北口・南口それぞれで「自動運転に対応したロータリー整備」等の最新技術の導入が書かれていますが、これらは別々の整備計画のように見えてしまいます。 50年先を見据え、北口と南口を一体として利用できるような次世代型の検討を行うべきと考えます。そのためには、現在の利用形態の変化を客観的な数値で市民に示し、理解を得ていくことが重要になります。 具体的な検討着手に向け、JR東日本やラスカ等の関係事業者から知恵を借り、早期に検討の場を設けていただきたいと思います。 現在の南北移動は、ラスカ内の改札前を通るルートか、東側(茅ヶ崎寄り)の地下通路に限られており、何十年も前から利便性が変わっていません。 そこで、スマートステーションとして、改札を通らずに(タッチレス等で)南北を往来できる仕掛けが大前提になると考えています。 例えば、大門通りからラスカ駐車場への進入動線を見直し、大門通りを越えた先、ラスカ駐車場と3階デッキの間の空間を活用し、神奈中本社西側の線路沿い駐輪場付近等に、新たな南北地上通路を整備してはいかがでしょうか。 この通路が実現すれば、自転車を押しての移動や、グリーンスローモビリティ等の安全な乗り物の通行が可能となり、平塚の新たな顔としての玄関口を形成できます。 これらが平塚市都市マスタープラン、平塚市総合交通計画のどちらに位置づけられるべきかという点は整理が必要ですが、市民を巻き込んで、こうした大きな夢を語り合える場をぜひ作っていただきたいと思います。
会長	隣接する周辺自治体の繋がりについて、神奈川県の実践は如何でしょうか。
委員	周辺自治体との連携は、大変重要な視点だと思っております。県の方でも、

	地域交通研究会という県全体の会議を開催し、国の方に施策について紹介していただいているほか、県内の各市町がどのような取組みを実施しているのか、紹介しています。 また、県内でブロックごとの会議を開催しており、もう少し細かく情報交換も実施しておりますので、各市町が周辺自治体との連携を意識して計画を策定されると思います。
会長	ぜひ目標をしっかりとたてて、計画を策定していただければと思います。岡崎の事例のように、地域との連携も重要だと思います。 平塚駅について、南口は整備を行うとのことですが、北口や西口についてはJRさん等の協力も欠かせないと思いますが、如何でしょうか。
委員	現時点では駅舎の建て替えといった具体的な計画はありませんが、平塚市と連携していきたいと思います。
委員	まずは自動運転バスの乗り入れもありますので、南口の整備を先行していただき、そこで得られた知見を他へ展開していただければと思います。
会長	それでは、全体を通じた意見交換を行いたいと思いますが、御意見のある方はいらっしゃいますか。
委員	公共交通だけで全ての課題を解決するのは難しいと認識しています。高齢者や障がい者が社会参画するための交通手段をどのように確保するのか、我々も考えていく必要があると思います。
委員	コミュニティバスや自動運転バスの導入は、高齢者にとって有難い施策で、新しい交通機関ということで、活力を感じています。ぜひ利用していきたいと思えますし、こうした議論をいただくことに感謝申し上げます。

委員	前回の活性化協議会でお話しさせていただきました、ららぽーと湘南平塚の渋滞について、対策状況は如何でしょうか。
事務局	施設管理者、平塚警察署、本市土木部も含めた協議を実施しております。 信号秒数の調整は他の信号機の運用に影響を与えてしまうことから、まずはソフト面での対策として、特に渋滞が著しい年末年始において、国道129号側に利用者を誘導するよう、他の商業施設で効果があった事例を元に、案内表示を工夫したいと、施設管理者から提案をいただいております。
会長	ウェブサイト等も活用し、平時から対策を進めていただければと思います。 他に御意見はありますか。ないようでしたら、以上で議事を終了させていただきます。 以 上